

多摩川改修の時代（1916～1930）その4

《金森誠之（しげゆき）と、河港水門》

金森誠之は、多摩川改修着工時から3年間、多摩川改修事務所に勤務し、1924年（大正13）から1931年（昭和6）まで、事務所長を勤めました。まさに多摩川改修に最初から携わり、やり遂げた人物です。（注1）

味の素の工場前に築堤するときには、味の素に港と水門を設置するよう働きかけ、寄付を受けて、河港水門を建設します。内務省からすれば多摩川改修の工費縮減に叶い、味の素も企業活動拡大の願いが合致したから、実現したといえるでしょう。（注2）

構造面では、鉄筋レンガを発明して使用しています。（注3）関東大震災のあと、世間ではレンガ構造が廃れ、鉄筋コンクリート構造が普及していく中（注4）、地震にも強いレンガ構造を作り出していたというのは驚きですね。

門塔の上には、建築家と共同製作したモニュメントが配されています。それは、土地の名産だった梨、桃やぶどうの像です。こうしたモニュメントを持つ水門は、日本において唯一無二で、非常に珍しいものです。対岸には、六郷水門が建設されていますが、こちらはシンプルな形状です。

河港水門は、1928年（昭和3）に完成し、その竣工式には、松竹蒲田キネマ撮影所の女優、川崎弘子らを呼んで祝っています。川崎弘子の名前は、誠之が、地元の川崎と弘法大師から付けた名前です。（注5）

注1：金森誠之（生没年：1892－1959）は、「まさゆき」ではなく「しげゆき」という名前です。多摩川改修事務所長のあと、1940年（昭和15）開催予定のオリンピック東京大会の漕艇場問題で「戸田村」（現在の埼玉県戸田市）を提案、同大会は中止となりましたが漕艇場計画は生き残り、後任の岩沢忠恭により「戸田ボートコース」として完成されています。その後、荒川上流改修及下流維持工事事務所長、東京土木出張所（現関東地方整備局）工務部長を経て、1938年（昭和13）、仙台土木出張所（現東北地方整備局）所長に就任。1941年（昭和17）下関土木出張所（現九州地方整備局）所長に転任し、翌年退官。

注2：誠之は、この河港水門から、川崎区を横断する運河を提案したとされ、都市計画決定までされますが、運河は実現しませんでした。川崎市や味の素は、河港水門建設に際し、誠之の壮大な運河構想に魅力を感じていたことでしょう。

注3：鉄筋レンガの構造は、対岸の堤防護岸が新築住宅の入り口造成時に開削されていたと

き、断面が露出しており、その時に撮った写真を投稿します。丸い鉄筋をレンガ積みの縦横に配置しています。貴重な遺物ですので、保存に心がけて欲しいものです。

注4：鉄筋コンクリートが最初に使用されたのは、土木分野では1903年（明治36）の琵琶湖疏水路上架橋です。建築分野では、1911年（明治44）の三井物産横浜支店（デザイン・遠藤於菟、構造・佐野利器：剛構造の提唱者）が初のオールRC造4階建です。なお、「鉄筋コンクリート」という言葉は、小樽築港に尽力した広井勇（生没年：1862－1928年）が、1903年（明治36）の論文で初めて使用したものの。

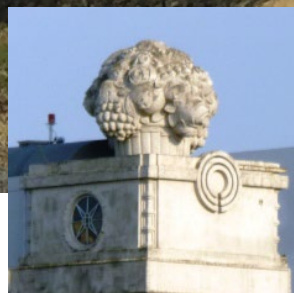
注5：当時、アメリカの映画流行を受け、松竹は、映画進出を決め、1920年（大正9）、蒲田に松竹キネマ撮影所（現ニッセイアロマスクウェア）を開所します。弘子は、1929年（昭和4）に松竹蒲田に就職、人気女優となります。

写真は、①河港水門（細見撮影）、②門塔の上のモニュメント（京浜河川事務所HP）、③鉄筋レンガの露出した旧防潮堤断面（細見撮影）

①



②



③

